22 de Outubro de 1920 No. 159

Noticias do Brazil

大正九年十月廿二日　金曜日　第百五十九號

伯和西爾時報

NOTICIAS DO BRAZIL
Publicado semanalmente
Rua Fagundes N. 16
Caixa Postal H
Tele. Central, 3695
S. Paulo, Brazil
Proprietario e editor
Seisaku Kuroishi

Assignaturas
por Anno ..... 15$000
„ Semestre ..... 8$000
„ Mez ..... 1$500
„ Semana $500

小作より獨立農へ

一友人の實話に據れば、地方到る處奮闘努力の跡鮮かなる我が同胞の農業狀態は、成績惡しと噂さるゝ處必ずしも惡からざると共に、成績良と評判さるゝ處必ずしも良らずで、實際觀たる處を概評すれば、粗より密に上つ調子より着實に趨きつゝあることは、事實爭ふべからざる●ことである。

就中米作地に於ける歩合耕作者の狀態は、昨年度あたりに『須らく大金を儲けるには大仕掛ならざるべからず』と云つた具合で、大切な經營者がパトロン氣取で、高賃銀のカマラダを頤使したるに反し、今年度は經營者自から農具を握り、自力の及ぶ範圍に於て耕作を試みると云ふことになつて來たのは、是れ一段の進歩で、幸ひに天候の障りさへなくば今年度に於ける米作者の利益は先づ確實なりこ豫斷し得ると云ふことである。

百の說教よりも一の實驗が利目あると云ふ諺の如く、伯國に於ける我が同胞の農業も、追々實物教育のお蔭で、上つ調子から着實に、無打算から打算に進むは、吾人の大に喜ぶ處ではあるが、動もすれば歩合耕作の如き小作方法には、唯だ單に金を儲けんが爲めに成功を急ぐの弊が伴ふから、此の點は吳々も注意して貰ひたいものである。

成功は人の好む處で、金さへ有れば何事も出來るは事實なるも、金の爲めに身を滅す者も亦世に其の數尠からざるを見れば、單に金のみを以て成功と心得るも、誤てる見解である、其の證據には、唯だ單に金を儲けて成金となりたる者に、終りを全ふした者が少ないやうに、金は財産とは成り得るが、之を成功と稱するまでには、其の金の半面に事業として有意味に且つ道德的の行爲が加はる必要があるやうである。

尙ほ從來の例に徵すれば、眞の成功者として世の稱讚を博する者に、初から終りまで成功し續けるは殆ど無く、大概成功失敗相ひ錯綜し、倒れては起き、起きては倒れ、起伏興仆屢々なるの後大なる成功を攫み得るのであるから、成功には必ず千辛萬苦が伴ひ、此の間に鍛錬した不撓不屈の精神が實を結ぶと觀るが當れるである。

故に伯國に在る我が農業者、殊に歩合耕作の小作者にあつては、初めから一攫千金を夢みず、先づ第一に勞力と健康とを打算して後其の事業に着手し、更に支出と收入とを計つて生活の標準を定め、斯くして殘した金を資本として土地を購ひ、以て獨立農業者として千辛萬苦すれば必ずや其處に大なる成功の生るゝは疑ひなしであるから、諸君は百尺竿頭更に一歩を進めて、獨立農業者としての眞の成功を握るべく鋭意努力するが刻下の緊要問題である

●外務省やつと眼を覺ます

日本からの通信に依れば外務省では今回政務局の仕事を二つに分けて歐米局と亞細亞局とを新設し、亞細亞局の局長には芳澤政務局長がなり、其の第一課長には木村鋭一氏、第二課長には岡部長景氏に内定し、第三課長は物色中だと云ふことだが、斯うして少壯有爲の外交官を拔擢し大いに外交刷新を圖るは國家の爲洵に慶すべきことである、而して此の亞細亞局を置くと云ふ理由は、從來日本の外交が歐米を主とした爲めに大切な隣邦支那を動もすれば閑却する傾きのあつたのは宜しくないと云ふのださうだが、尙ほ序に南米局をも設けて北米の外交問題を南米で綏和する樣にしたら更に妙ではあるまいか

●世界大勢上より見たる製糖業及び相場（二）

北島湖西子談

而して自己のロッテに米作する所盡る時は出稼を爲すに至る、故に其のロッテは益々荒廢して狐狸の住家となり、家あるも恰も田舍の廢寺の如く荒々たる草の間に壁落ち瓦傾き見るも憐れなり、然るに此の荒々たる所も草を燒き拂ふてカンナを植ゑ、巖山として顧られざりし所も耕されて青々とカンナ生長し、昨年ミーリョを收穫したる所を整理し茲にカンナを植ゑ、漸次其の面積を擴張し來りて秋の心地能き朝風に吹かれながら眺むる家の附近は一面のカンナ畑となり、之を搾りて幾袋の砂糖に代へ、又自家用としてピンガ幾樽と胸算用する時に、自分とロッテとの間に親しみを生じ來るや明かなり、ロッテとの親しみは即ち茲に定着することを意味し、定着は即ち植民の眞の資格を生ずるが故に、米作を主として植民地を見る時は其の永久の存在を疑はざる可からざるに反し、カンナ熱の勃興は大に定着心を增加するを以て余はカンナ熱を稱贊し、會社亦之が栽培を奬勵し補助すべきが至當なりとす。

然らば此のカンナ熱なるものは植民時報紙上に於ても、日本の教師に依つて之れを補習せしめねばならぬとの意見であつたが、現在此處の學校でも修身と云ふ課目は教へて居ないが、即ち倫理道德の教育は言よりは行ひに如くはない、そして其の行ひより尙ほ大切なるものは人格教育は必らず其の父兄が、主とならなければならぬ事を言ふて置く。

當植民地を風靡し、向ふ三軒兩隣りにモエンダの軋る音聞ゆるが如き大流行を來せり、モエンダあれば馬を要す、馬あれば牧場なかるべからず牧場を設けんにはアラメを要す、アルマゼンも儲ければ白老も儲け、植民は意氣揚々として白馬銀鞍に跨りシコッテを執つてッダーデを往來するもの多きを見て余は當植民地の隆盛を祝せざるを得ざるなり、而して彼等工場にて製せられたる砂糖は五十乃至六十ミルレースを以て羽根のあるが如く飛び然かも其の砂糖たるや從前の如く買ふて間もなく風化しドロ〳〵になるが如きことなく、一分間千何百回轉の分蜜器を備ふるに至れるは誠に目出たし。

蓋しカンナ栽培及び製糖熱の大流行ほ只だ現在に於ける利益大なることより此の如く大流行を來したるや明かなりと雖も、抑も此の高値は何に原因するか、又此の高値は何時まで持續するかに至つては、是れ概して盲目的にして暗黑なれば甚だ危險なり、故に植民地經營者は宜しく其の將來及び利害を深く研究し之を明かにするを要するなり。

▲寄書▼

●兒童教育に就て（三）

山根寛一

今一つは伯國と日本とは其の社會進歩の經路を異にして居るから、道德の規範とする處に自ら差異がある、日本では教育勅語が修身教育の基礎をなして居るから國民教育は此の大道に基けば宜しい、然るに伯國には斯の如き道德の公準が明らかにしてあるではなし又別に修身課と稱す可きものもない、結局我國古來の社會道德、家庭主義と相容れぬ厄介千萬な者が出來はせぬかと言ふのであるそれに第一修身教育は倫理學者でもなければ教へる事が出來ぬ樣に思ふのが間違ひである、教場で只だ先生の口の先き許りで道德を說いても効力はない、即ち倫理道德の教育は言に頭腦の固まらぬ兒童に對する修身の行ひに如くはない、そして其の父兄が、主とならなければならぬ事を言ふて置く。

謹告

拜啓　益々御清穆奉慶賀候

偖而練習艦隊歡迎に關し本月一日以來兩邦字新聞每號紙上を以て廣く在留民諸賢の御後援を願出候處續々熱誠を籠めたる御寄附金の御送附を辱ふし發起人一同深く感謝龍在候然るに艦隊來航豫定は約十日間を繰上げられ十一月廿五、六日頃には「サントス」港に入港の報を入手致候從つて歡迎計畫は一日も早く確定するの必要に迫られ居候に付此際奮つて御寄附金の御送附を願上度奉懇願候艦隊來着豫定變更御通知を兼ね御願迄如此に御座候

追て　寄附金額御隨意　一ミル以下取扱困難に付中受けざる事

寄附金收納締切期日

大正九年十一月十日限り

御送金は左記宛に願上候

練習艦隊歡迎團會計主任　熊坂清四郎

Caixa Postal, 344, S. PAULO

寄附金の受領に對しては特に受領證を發せずして御芳名及金額を兩邦字新聞に掲載し受領證に代ふる事と致候

大正九年十月二十二日

練習艦隊歡迎團發企人一同

在留民諸賢

▲▲東西南北▼▼

◆過激主義を宣傳して全世界を一大平民國にしようと傲語したレニン政府も其爲す事極端なる專制なので百姓承知せず反過激派や露に滿つ

◆西伯利のコルチャック提督セメノフ將軍南露のランゲル將軍頓に勢を得過激派の赤旗甚だ振はず何れ源氏の白旗の世となつて露國治まらむ

◆亡命して巴里に在るケレンスキ曰く過激派政府は半歲を出でずして崩壞し保守黨之に代らむ露國民は既に社會主義の語を耳にするを不欲と

◆羅馬東京大飛行に成功せしフェラリン中尉今度はアンデス越えを計畫して陸相に許可を願ひ出た亞國政府も無論承知の筈故近く實行されむ

◆支那北部では追々酷寒に向へると糧食の缺乏で民心動搖過激派に感染する者多しと寒地でなくとも衣食不充分なれば危險伴ふ資本家要反省

◆伊國工業地に於ては勞働者の示威運動猛烈にして之を鎭壓せんとする軍隊警官との衝突は每日の事死傷者亦夥しく丸で革命戰爭と云ふ形だ

◆倫敦の失業者の群首相官邸へと押し寄せるのを警官が制止しようとして眞晝間目拔の場所を修羅の巷と化したこれ勞働者のみの罪にあらず

◆資本家及政府の御役人は何れの國でも勞働者を劣等人種扱ひにする癖がある若し此謬見をへ無くなれば勞働問題の解決は甚しく容易ならむ

◆北米教育省の催しで十一月に南米開發に關する講演會が北米各地の學校で開かれる其講演者六人の中三人迄婦人だとは流石の反米家も感歎

◆伯國プロパガンダに農園活動寫眞を使つて居る點は伊國も日本も同じだが一方は政府自ら之を爲し他は政府の援助無し効果雲泥の差は當然

◆排日紙はサントスの日本人漁夫仲仕人足、自動車運轉手及醸業婦に就て針小棒大の記事を掲げ大に排日氣分の醸生に努めつゝあり油斷大敵

◆針小棒大は事實無根と異る嘘を書いても知らぬ人は之を信用する況んや多少の事實あるに於てをや近來サントスの日人醸業婦漸次增加しつゝあり需要供給の結果と濟して不居

經濟欄

●歐洲南米間 空航運輸計畫

歐洲南米間空航運輸の爲め飛行船を用ゆるに至るは最も近き將來の事實たるべく、之に關し英國ウイカース飛行機大製作所長ダーソン氏の云ふ所に依れば曩に北三十四號機が英國北米間往復飛行に費せしは僅かに一週間なりしに徴するも第一時間の經濟上頗る利益を得る事となり、現今の大型飛行船の速力は一時間百基米突であるが發動機に改良を加へれば容易に百五十基米突を飛翔することが可能る、然るに現代汽船の最大速力は一時間六十基米突であれば空航運輸を實現せしむる方確かに有益であるから歐洲南米間空航運輸は決して徒爾の計畫ではない、先づ最初の試みとして一週一度乃至は二週間毎に一回行ふ豫定であるが兎に角五千基米突の距離を着陸せずして飛翔するのであるが故に之れに要する燃料を充分に積載する必要から大規模の飛行船を製作せねばならぬと。

●産物奬勵補助法案

聯邦政府は內國產物奬勵として補助を支給せんが爲め近々產物奬勵補助支給法を發表し外債を募集すべしサンパウロ州政府は州產物奬勵に必要なる補助を要請し承認を經れば直ちに珈琲は勿論其他產出物の販路擴張に最善を盡すべし。

●海上博覽會來春來伯

一大和蘭陀シンヂケートの計畫になる海上博覽會は偏く歐洲の製品を網羅する由なれば其規模自から大なるは押して知るべく而かも大汽船マセドニヤ號を以て之れに充て來春早々歐洲を出發し紐育『ヒイラデルヒイヤ』『ニユー、オレアンス』『ヴエラクルス』『アヴアナ』『ラ、ガイラ』『西班牙を經て當國』『ペルナンブーコ』『バイヤ』『リオ、デ、ジヤヂーロ』『サントス』『モンテヴイデオ』及び『ブエノス、アイレス』を巡航すべしといふ。

●伯國米を獨逸へ供給

目下獨逸に滯在中なる當國パラ州商業會議所代表者フエレーラ氏は獨逸との商業關係を速かに舊復せしめんと奔走中にして又伯國米を獨逸に供給せんと提唱したるが食料品に缺乏しつゝある獨逸は同氏の提議を甚だ歡迎し居る由なれば日ならずして多額の伯國米獨逸に向け輸出さるゝに至るべし。

●伯國と伊太利移民

移民局長は如何なる條件の下に大舉移住を許すか

現今伊太利の政界及び操觚界に於ては伊太利移民を伯國に輸送するの可否に就き議論百出の有樣にて喧騒を極めてゐるが移民局長ミケリス氏は移民會議に臨みて本問題に關し詳細なる說明を試み且つ政府の方針を發表した其の大略を揭ぐれば次の如くである。

『伊太利人が、個人的に伯國に移住するは自由であつて之に對し政府は從前通り何等の掣肘を加へない然れども團體移住者を無賃輸送する場合乃至は其他種々の特典を附與し或は耕地に集團をなすといふ場合は政府は干涉する必要がある。

移民募集人に金員を支給し又は船會社に補助を與ふるのは伯國只一國のみである之れ即ち伊太利政府をして嚴重なる警戒をなさしむる原因となる、惡辣なる移民募集人が因循姑息なる手段を弄して移民を籠絡するからである。

伯國は天與の大富源を包藏し將來洵に有望なる國であることを認むるに躊躇せざるも其の自然の寶庫の扉の一部は最も近年に排せられたのである。伊太利移民に最も適當なる處は南部地方即ちリオ、デ、ジヤヂーロ州、サンパウロ州、ミーナス州、パラナ州、サンタカタリーナ州、リオグランデ、デ、スル州である、サンパウロ州の如きは珈琲栽培に必要なる移民を極力勸誘するに勗め而かも移民五萬人に對する旅費支給を豫算に計上してゐるのである。

伯國行移民に關しては今日迄甚だ能く研究されてゐる、就中一千九百○七年伯國の視察を遂げられたる現任殖民大臣ルイヂ、ロッシ敎授の報告と一千九百十二年に於て前社會黨代議士ビイラッチーニ氏が農事勞働組合委員一行の長として渡伯研究せられたる報告書に依れば其當時の何れに於ても移民狀態は家族に因り異なりし點ありしとは雖ども大體に於て決して好良ではなかつたのである

政府が大舉移民の渡伯を許可するとすれば伯國政府に對し嚴密なる保證を要求する必要がある乃ち渡伯移民の保護は云ふ迄もなく住居權、法律上の保護、醫藥の救助、學校の設備、勞働組合への補助、經濟狀態の改善、耕主との契約履行監督、土地購入上の特典等苟くも移民の利益を保護する爲めには在伯伊太利領事及び移民監督官をして監視せしめ、伊太利政府は之に對し勞働をして資本に相伴はしむるに盡力せねばならぬのである。伊太利移民は假令日本、獨逸或はスラヴ移民が、伯國に於て勞働競爭をなすとするも大舉移民を輸送する上には何等の故障を見出さないのである。政府は彼我兩國の利益を重んじて移民の出國に便宜を與ふることが可能る、要するに兩國共に誠意を以て相互善く了解し合ふと共に文明社會が許す能はざるが如き行爲を敢てせざることを誓はしむる要があるのである』。

椰子の木陰

原首相の几帳面は有名なもの例の白髮の手入れから服裝の端々に至るまで實にキチンとしたもの芝の本宅でも腰越の別莊でも規模こそ小さいが其整然たることに於ては並勝れて居る室內塵一本も止めざる淸潔さは申すに及ばず机上の一墨一管と雖も苟もするを許さずと云つた風がある▲世間では原首相を物質一點張の樣にも風評するが寧ろ神經質で理想家的とでも云つた風が窺はれる毎朝定つて一風呂浴びる冥想暫く時に趣向が浮ぶと風呂の中で悠々と書下して置く之れが他日大問題を解決する素地にならふと云のだから聊か趣があるよとは昵近者の談

●定期相場表（昨日）

◆カフエー（チーボ四番 十キロに付）

十月	九、〇〇〇	八、五〇〇
十一月	九、〇五〇	八、三五〇
十二月	九、六〇〇	八、二七五
一月	九、四〇〇	八、四二五
二月	九、五〇〇	八、五七五
三月	九、六二五	八、六二五

◆アルゴドン（エンラーマ 十五キロに付）

	買	賣
十月	三六、五〇〇	三八、〇〇〇
十一月	三七、〇〇〇	三八、五〇〇
十二月	三八、〇〇〇	三八、九〇〇
一月	三八、〇五〇	三八、四〇〇
二月	三八、〇〇〇	三九、〇〇〇
三月	三九、〇〇〇	三九、七〇〇

◆アルゴドン（エンカロソ 十五キロに付）

十月		
十一月		
十二月		
一月		
二月		
三月		

◆白米（六十キロに付）

	△アグリヤ、エスペシヤル	△アグリヤ、スペリオル
十月		
十一月		
十二月		
一月		
二月		

◆モミ（六十キロに付）

	△アグリヤ、ポン 買	賣
十月		
十一月		
十二月	二二、六〇〇	二三、七〇〇
一月	二二、八〇〇	二四、〇〇〇

◆豆（六十キロに付）

	△ムラチーニヨ 買	賣
十月		
十一月		
十二月		
一月		
二月		
三月		

△アランコ

十月		
十一月		
十二月		
一月		
二月		

●物價表（昨日）

砂糖（特等）	六十基	
同（上）		八二、〇〇〇
白米（特等アグリヤ）		八〇、〇〇〇
同（最上アグリヤ）		四一、〇〇〇
モミ（特等アグリヤ）		三八、〇〇〇
同（最上アグリヤ）		二二、五〇〇
同（上アグリヤ）		二一、五〇〇
豆（最上ムラチーニヨ）		
同（上）		一二、五〇〇
ミーリヨ（アマレリニヨ）		
同（アマレーロ）		一三、三〇〇
同（アマレロン）		

●爲替相場（昨日）

倫敦（リブラ）		二〇、六四〇
巴里（フランコ）		三八七
ニウヨーク（ドル）		五、九七〇
日本（圓）		三、一〇〇

社告

左記の處に支部及び取次所がありますから購讀申込料金拂込、其他の事に就いて便宜最寄の處へ御照會を願ひます

◆モヂヤナ線コンキスタ驛 コンキスタ支部 福川薩然

◆ノロエステ線エイトル、レグルー驛上塚殖民地 エイトル、レグルー支部 鈴木季造

◆同線ビリグイ驛ビリグイ土地木材殖民會社 ビリグイ支部 宮崎八郎

◆同線アルブケルケ、リンス驛森部商店 アルブケルケ、リンス取次所 森部一衛

◆伯刺西爾移民組合支部 リベロン、プレト出張所 リベロン支部 坂元靖

◆ノロエステ線プレジデンテ、ペンナ驛 ペンナ取次所 古庄常喜

◆アラ、クワラ線カタンヅーバ驛 カタンヅーバ支部 小林弘二郎

伯刺西爾時報社

告示

爾今當館へ提出ス可キ諸願屆書等ハ在サンパウロ總領事藤田敏郎宛トナス ベシ

右告示ス

大正九年九月八日 在サンパウロ

帝國總領事館

廣島屋旅館

聖市コンデ街五十三 電話セントラル五八一九

Rua Conde de Sarzedas, 53 Telephone Central, 5819

Emporio Uyemura 上村萬作

◇日用雜貨各種 ◇日本品各種 ◇神田醬油取次

リベイロンプレト市カルカード三六三七 Mercado, 36—37 Rib.trão Preo

土地賣却

Heitor Legrú は外人間に一名「新日本」と稱せらるゝに至つて居る

今回賣り出す土地は停車場の前面から遠きも二キロメートルスを出でない極めて豐沃な地續である市街地向きの牧場によく果樹園によく小農業者に取つて此れ以上の好適地は他にないことを斷言しても差支ない私共と志を同うして「ノロエステ」に新日本を建設せんとする同胞諸君は一日も早く視察せられんことを望む

イタコロミー殖民事務所 Estação Heitor Legrú Linha Noroeste

上塚周平 鈴木貞次郎 坂本留次郎 間崎三三一

廣告

當社貸附移民にして最近その居所を變更して未た屆出なき諸君は此際至急その耕地名殖民地名驛名線名等を詳記して御一報有之度候

大正九年十月

海外興業株式會社伯國支店 Caixa Postal, 1082, S. PAULO

新種子賣切御禮

本年四月新種子類輸入發賣以來非常なる人氣を以て迎へられ大盛況裡に全部賣切と相成申候間此段御禮旁々廣告仕候

追而來年度蒔付の新種子類は來る十一月中旬荷着可仕候間倍舊御用命の程希上候

仕立洋服、化粧品、小間物、賣藥、種子、額面、土佐鋸

日伯物產便利組 Caixa Postal, 1730 S. Paulo

●伯刺西爾曠原の探險

米國 テヲドル、ルーズベルト著
日本 北島湖西子譯

第五章　タピール貘川上り (六)

セボトユーバ川は、最初千九百〇八年伯國電信隊長として大森林州白人未踏の西北部曠野探險の二年目ロンドン大佐によりて學術的に探險せられ地圖に上せられたる者なるも夫は詳細なる記載にあらず、又何等他の學術的事業を伴はず只電信布設の爲め支柱を置かれしのみなりき。

此際ロンドン氏は少佐なりしが、其事業のために曠野を迷へる不在の間に中佐大佐と二回昇進せるなり、而して氏の長年月間の必要にして危險困難なる探險は實に千九百〇九年の伯國發見の日に相當する五月三日に始まり、タピラボアンを發しジーバラナ川を降り、同年十二月廿五日クリスマスの日マデイラ川に到着せるなり、從來ジーバラナ川の川口は知られ居りたるも其全長の上半流に關しては全く不明なりき、此時の一行中には現在余等の一行中に在るアミルカ大尉リラ中尉等の如き探險事業に對して他に比すべき人なき程の適任者ありき、千九百〇九年の八月に至り都隊の食物は勿論食鹽も消費し盡し四ヶ月間は木の實、獲物、蜂蜜等によりて生活し、然かも荷物は皆各自之れを背にし身に襤褸を纏ひ半饑餓の狀態にてマデイラに到着せしとのことなり。

大佐一行のなせる探險の有効なる結果は、其頃世界の所々に於て企てられし探險と均しく伯國は勿論歐米の地學協會の承認せる所となれり。

如此き曠野を最初に探險せんとする時は非常の困難や意外の危險に忍耐するを必要條件とすると雖も後繼者に至りては比較的容易にして路は已に踏みにじられ何等の經驗なき人も左まで困難なくして通過し得る者なり、而して只一日にても如此き內に狩りに又は採集に從事せる經驗ある人と雖も先輩の嘗たる苦き苦るしき困難の只幾分を想像し得るのみなり而して大佐によりて探險せられたる曠野は今や全く征服せられたる者にあらずして今尙人生に對して威嚇を與へ居れり、カセレスに於て此の勇敢なる幕僚カルドーフ大尉死亡の報に接せり、大尉は今一行の進まんとする曠野の遙か內部にて脚氣に罹り倒れたるなり、又一報あり一行の爲に糧食を搭載し、ジーバラナ川を遡り一行の降航に會せんとして、同川を遡り來る際、船覆へり荷物の全部を流し三名溺死せりと、如此き冒險や困難は普通のことにしてカマラダは大抵同行を好まざるが故、電信隊と同行する勞働者は普通文明社會の賃銀の七倍を拂ひ居れりとの事なり吾人の一行はコックを得るに大に困難し、汽船ニヲアック號のコックに同行を勸めたるに『君よ余は未だ曾つて罰せらるゝが如きことをなしたる事なし』と答へたりき。

土人の船と共に降りたるランチは五日目に歸り來れり、十三日には野營を徹し荷造りをなし、荷船とランチとに全部を搭載しタピラボアンに向て出發せり、一行の人員三十名、犬五頭、天幕、寢具、糧食等にして肉や革皮は混包せり。

初日は終に降雨、其後の天候稍旅行に適せるも時々雨來り、又時々日照りて暑し、屋方船の一隅に設けられたる竈にて調理せらるゝ料理は佳良竈は前の小山より取り來れる土を甲板上に塗り固めたる者にして、玆處に汚れたるコックは照り降りにかゝわらず悟を開きたるが如き嚴肅なる態度を以て料理に從事し居れり、種々の色せる從者達は大概の時、霜の內に海老の如く曲り眠り居れり、大なる海龜は船首につながれ居り、人若し其の近かく眠れる時はかき上らんとして無駄の努力をなし居れり。

除ろに鼓動せる機關は、一時間に一哩半位の速力にて兩外輪を廻轉せしめつゝ眼前に延長し居れる鳶色の水を蹴りつゝ進めり、兩岸には有毛竹や奇妙なる黃色の樹、非常に葉の多き丈低き樹、組紐の如き美しき簇葉を持てる大木、支柱を有せる樹、眞直ぐに高く立てる樹等皆寄り木に纏絡せられ、其尾は川邊に幕の如くに垂れ下り內に入ることは勿論窺ひ見ることも遮られて能はず、稀に大なる白き花や小さき赤又黃色の花咲きほこれり、ベコロヤ、百合の樣の花多し、無數の氣生植物腐木を被へり、鵜、かわせみ等枝より枝へ飛び交へり、暫くして赤瓦白壁の大なる家マンゴ樹の間に建てるを見たり、窓は扉のみにして硝子戸なし、家の側に立てる椰子の木にぶらさがり居れる多數の椋鳥の巢ありき、後園は蜜柑珈琲の林にして近かくバナナ、米、煙草畑あり、色蒼白き家長は溫柔にして丁寧なる男なりき、膚色黑き婦人等は後園に潛み居れり、此家も亦カセーラスの會社の所有に屬せるものゝ一なり。

●新しき世界の大勢に眼覺めよ (上)

最近歐洲諸國を歷訪して深く社會の出來事を研究して歸朝されたる法學博士蛯川新氏の感想に據ると

▲階級爭鬪唱道は時代遲れ、歐洲の今日は戰後の方策として、人民一般の努力勤勉に待つより外はない、階級爭鬪を唱へて、勞働者と資本家と鬪ふ如きことは、今日の歐洲の時勢にあはない、階級戰爭を唱へたのは戰爭前の太平代に於ける全く過去の事に屬するのである、塹壕の內に協力同心して戰つた佛國人は戰後の經營に付ても亦國民の協力一致に依らざるべからざる事を理解して居るのであるが、豈是れ獨り佛國のみならず、戰爭に從事した國々の國力を恢復するには、斯くせざるべからざる次第であつて、此の觀念は佛國に於ても、白に於ても、獨、英其の他の諸國に於ても悉くこれを認め得るのである。

例へば佛國は今日『赤化』したいふことを日本人等は、一種のプロパガンダたる國際電報を眞にうけて主張する者もある。併し親しく伊國に行つて狀況を調べて見れば何人も皆伊國は生產せざる可らず勤勉ならざるべからずといふことを唱へて居て伊太利人がボルシエビツキの如くに極端なる革命を超す如きは、斷じて無しとは伊國人自國が我々に云つて居ることである、伊太利は有名なる冗辨の國民であり、やたらに口舌を弄し種々の議論を爲す、けれども露國民の如き亂暴なる革命は、決して起り得るものに非すといふことを、伊國の事情に通じて居る人は皆唱へて居る。

又白國に於ても、社會主義は盛んに唱へらるゝ國ではあるけれども彼等は決してボルシエビツキの如き愚昧なるもの又は殘虐非道なるものではない。此國民の間には、カトリツク黨即ち保守黨に對する尊敬の念も常に盛んにして、國王及皇后に對する敬愛の念は、戰爭中と少しも變らないのである。

獨國に於てもスパルタキスト即ちボルシエビツキと通じたる黨派は、今や殆んど無勢力となつた、社會黨中の多數社會黨は、今日は決して純粹の社會主義者ではない、獨立社會黨は、主義として社會主義を唱へる然し露人の如き極端なる革命を唱ふるものではない。其の他尙獨國には カトリック黨の如きは依然として大なる勢力を有して居る。獨人は、『あまりに英佛が、獨を經濟的に壓迫すること甚だしければ、獨人は遂に露國の如くにボルシエビツキに、變ずべし』として、屢々英佛人を脅かす、本來獨人は、露人の如き愚昧の人民でなく、頗る打算的のものなるが故に、佛人は、例の『おどかし文句が又始まつた』といふ調子で、冷然として獨のおどかし文句を嘲けり笑つて居る。

又英國に於ては、今日ロイドヂヨーヂは、休戰後と異り勞働黨を喜ばし、又社會主義者に對しては其共產主義者たるを以つて之を攻擊して居る、而して英國青年間には、アスキスは中々の人望を有し、英國人一般がボルシエビツキに走るが如きは斷じてあり得ないものだと私は認める

▲誤れる日本の論調即ち、現今の歐に於ては、各國人共に、勤勉努力し其國力を恢復せんとするの希望熱烈なるものあり、ボルシエビツキの如き亂雜非道にして、產業を荒廢せしむる如き主義は、悉くこれを嫌惡して居る。ボルシエビツキは、如何にプロパガンダを爲すとも、露國以外に其の勢力を振ふこと能はず、ポーランド人の如きは、初めより常にこれと戰ひ、今日に及んで居るこれが歐洲の思想界の大勢だと私は信ずる

然るに日本に於ては、多くの論客が、向後の世界は、或は勞働者のものであるかの如く論じ、或はボルシエビツキの思想は歐洲のみならず、世界を風靡するものなるかの如くに論ずるが、如何なる事實を根據として此の議論を爲すのか、私は理解に苦しむのである。日本に於ては、ボルシエビツキに對して、之れを征伐せよといふものあらば、これは世界の大勢に反し、日本を孤立の危地に導くものゝ如くに論じて居るが、これこそ、却つて世界の大勢に反し、日本を危險に導くものだと考へる。例はサイベリアの問題にしても、初めより斷じて大いに出兵し、大いにボルシエビツキをこらしたならば、歐洲人の賞讃をうけたことは勿論、今日問題となれる尼港事件の如き悲慘なる事件が生じなかつたのである

ところで、近來ボルシエビツキ政府の委員が、英國に於てロイドヂヨーヂに會見し、英國人と通商を開始するといふ電報が傳はるを見て、日本の論客は、ボルシエビツキの勢力は、すでに侮り難きものなるを以つて各國は、これを承認するものなるべしと、論ずる人が甚だ多いのである。然しこれは、歐洲の新しき事情を知らざる議論だと思ふ。

綺麗で、迅速で、丁寧で有名な
石村洋服洗濯所
電話セントラル參貳參四
Rua dos Lavapés No. 236

旅館 成功館
古謝將義
電話番號 二〇〇八
Largo 7 de Setembro, 15 Santos

聖波羅土地材木殖民會社
◆當社は水質良好、氣候溫和にして珈琲其の他の全作物に適する肥沃なる絕好殖民地ビリグイ。エイトール、レグルーの土地を廉價且つ拂込方法を容易にして賣却す
◆ビリグヒ殖民地は、既に四百家族の現住日本人あり、且つ道路四通八達し兒童敎育機關及び日本醫院の設備等あり
◆尙詳細は左記宛御照會ありたし
ビリグヒ代理人 宮崎八郎
Est. Birigüy L. NOROESTE

P. Machado & Co.
CASA BANCARIA
Albuquerque Lins
◆營業課目◆
一、日本其他諸外國宛送金
一、一般手形割引
一、預金は一口五十ミル以上御預り申し左の利息を附し小切手、通帳差上候
當座 一ヶ月 三ヶ月 六ヶ月 九ヶ月 一ヶ年 小口 同 同 同 同 同
預金 據置 同 同 同 同 同 年 三步 四步 五步 六步 七步 八步
加奈陀ローヤル銀行代理店
ノロエステ線アルブケルケ、リンス驛
マツシヤード商會

FUJISAKI & COMP.
日本各種品
藤崎商會
東京本店 赤坂區溜池町卅三
本店 リオ、デ、ジヤネイロ
支店 ペルナンブーコ
サン、パウロ支店
Rua S. Bento No. 68-A
Tel. Cent. 2788—Caixa, 344
S. PAULO

伯國醬油製造界元祖
神印最上醬油
釀造元 サントス港 神田榮太郎
Caixa Postal, 282
SANTOS

●イグアペ植民地の工場廻り(三)

仰岳生

七人共日本より大正七年五月より八月着いた者で二ヶ年餘の今日之れ丈けの大工事を決心するには海興のアヂューダもあつたには相異なかろうが、能く結束して熱心に努力して居る日本人としては珍とすべく組合員中其人あるを思はしむる、水量は豊富だし將來製材、精米より電燈迄もと力んで居る。組長の深澤君曰く、海興がつぶれても私等の築いた石造の工事はくづれやしませんと威張つて居たが、間違のない樣に御注意が肝心だ。海興の先生達も云つて居たがどうも協同事業が日本人には六ヶ敷い、大仕掛にやれば小仕掛けのものの數多いより設備に要する金は少なくして良い成績を得らるゝにきまつて居るが、彼の人とはコンバはいやぢやとか何とか難癖付けて不利益を知りつゝ獨立してやりたがる、砂糖の將來も不明だから餘り熱を高まらしめず資金を一方に注入するを避くる樣にすれば良いのだが日本人には望み難い、何んでも植民の作れる共拓會でも色々と研究中だ相だが、鈍栗の背較べだから甘く協定せしめて共同し得るかどうだか、實際は少し强制的でも海興が命令的に協同せしむると良いのだが意氣地がないから駄目だ。

大瀧組合を出てマンガラルガ線を經て新設中の田中組、守屋組、秋山組青柳よりキロンボの荒崎組を見てカラビランガ線道路の大鹿組のピンガ工場を見て山岸組より青木組に一足飛び、大鹿、青木組は去年からピンガ製造中だ、後者は大分儲けたらしい、本年もカンナの面積三人で約十アルケーレスを持つて居るから、カンナ一噸二百キロで、八十リットル入一樽を得るとせば約八百樽位の製造高で、印紙、樽代、税金を控除して正味一樽三十六ミルと見ても、一家族宛十コントス近き生産高に上る譯だ、此所に青木一族が五六ヶ族居るが親類でも共同は出來ぬと見へて新設の中のものが外にもあるつまらぬ話さ。

それから尙小さき仕掛けや新設中のものは澤山あるが、何れも大同小異中央道路を戻つて、一家族最も小仕掛けの丸山爲治君の工場を見た、一昨年當植民地中最も土地の悪いと見做された土地へ、近いと云ふ理由で入地しカンナを植へた所、元來雪國の信州人のことゝて、砂糖は木に實るか草の根から採る位より思はなかつたものが、入地一年後色々聞いたり見たりで、木製モエンダに堀立小屋でやつて見たが、案ずるより生むが何とか密にもならず甘いものが出來て大に勢い付き、本年はモエンダは鐵製にし鍋も增加し家も竈も造り直して造つて居る、作るには簡單で何しろ男一人女二人で一日働けば間違つても五十ミル百ミルは入るのだから、三日やれば止められぬわいと元氣なものだ、内地ちや純農ぢ屋でやつて見たが、案ずるより生むが何とか密にもならず甘いものが出來て大に勢い付き、本年はモエンダは鐵製にし鍋も增加し家も竈も造り直して造つて居る、作るには簡單で何しろ男一人女二人で一日働けば間違つても五十ミル百ミルは入るのだから、三日やれば止められぬわいと元氣なものだ、内地ちや純農ぢ當に植へてあるが皆植へた計りだ、甘蔗、マンヂョーカ、米、牧草等の種類試驗も見た、野菜は塲員の食料位のものだ、農具も可成りある、砂糖の製造試驗塲もある、講習會を開くつもりだ相だが植民の方が早や相だ、實際講習會の先生も植民の一人だ、此附近にも有象無象が砂糖〳〵と云ふて居る、うるさいから名前は列べまい。

此邊で一纏めにして砂糖の製造を說明するが一町歩の甘蔗收穫高は誰も試驗した者がないから明白ではないが、去年或者の大略の計算によると三十五乃至四十八噸だ相だ、ヂャワ布哇には及びもないが、聖州ピラシカバ附近、リオ州カンポス附近の平均額に比して大した相異ではない、耕地ぢやない森の燒跡に無秩序に植へ込んだのだ、無論肥料を施すぢやなし、無經驗の時代として栽培上改良の餘地は頗る澤山あると素人眼にも見へる、甘蔗の種類も實に雜駁だ、何でも初期苗が不足の爲めカンナでさへあれば何んでも植へたものらしい、近來沖縄縣、大東島等に砂糖に經驗ある多數の植民入地と共に栽培より製造上に改良を稱へられて居るから漸次改善さるゝ事と思ふ、種類はバンブー、インペリアル、カイアナローシャ等が多い。

此植民地は低き丘陵地で雨が多く甘蔗の耕作には適當した氣候らしい糖分も多く平均十度より十二三度を含み一度植ゆれば經濟的に四五年は收穫し得られる、カポエーラの中には土人の植へ殘せる幹が延びて十二メートルに達したものさへ見た一噸のカンナから四百五十リットルのガラツパを得之れより粗糖七十五キロ以上を得とし六十キロ一袋現今の相場五十四ミルとして六十七ミル五百一町歩から二コント三百八十ミルより三コントス近き收穫がある筈だ。

●主義と自由と信仰(下)

蛇體　松尾峰三

結合して共に働かむとする友へ

生活の壓迫に逢つて生活の自由をブラジルに求めに來た私は、渡伯以來今日迄勞働と生活の上に自己の意志を自由ならしむる事が甚だ困難でした、然しそれは一局部から觀ての事でありまして大體に於ては大なる私の意志の自由があります。

家族の分離！これは私の渡伯の目的の一部を放棄せねばならぬ程の苦痛を私に與へましたが、私の大目的を敢行せんとする私の意志の前には何物もありません、私は私ですII兄足下

兄と結合の曉に於ても私は私の意志の自由に活き度いのです、幸に此精神にして同じく意志の一致を見る事を得たならば結合の目的を達する事も速かでありませう、若し不幸にして一致を見る事が出來ませんでしたら兄とも亦分離の已むなき私の意志を自由ならしめて下さい

兄よ、二人で大に働いて物質に成功するも好い事です、成金になるも景氣好い、故國へ歸つて威張つて見るのも痛快です、然しもんな事に幾程の幸福がありませう、否却つて苦痛の原因となる許りです、それよりも私は大に意志の自由に生きて見たいと思ひます、信仰の自由に生きたいと思ひます、即ち自由の雰圍氣の中に浸りたいと思ひます、『物質的に富まなくては精神の愉快はない』と云ふ兄の言には者昔しかねます、私は飽く迄も『精神的の富に依て物質的の愉快を買ふ』の主義です、此伯國に於て唯一片の書信に依て結合が成立する程の近さを見ますが、實は幾分の隔てを感じます、殊に二者の配偶者に於てこれあるを悲しみひいて結合の將來を憂慮せずには居られません、私は此憂慮をして杞憂に終らしむべく兄へも今間へも大に意志の自由を尊ばれん事を御勸めします、眞實の親子の間には唯眞ありで紙一枚の隔てもありませんが、養父子の間には如何に打ち解けても何物か疎隔して居る樣な感があるものです、願くは私等の結合をして眞實の親子の如くあらしめよ、自由の世界に自由の光明を仰ぎ自由の活動をしたいものです

兄よ、此粗雜な文字が吾人の結合の上に幸福を齎す事を得ば慶びの極みだと思ひ机下に呈して私の意志を表明する次第であります

終りに私の信仰に就いて一言します

私は親鸞上人を信仰する者であります、七百年の昔に於て大英斷を以て肉食妻帶を敢てし大に主觀的自己を吹したる上人は實に自由に活きた第一人者であります、それより七百年後の今日他宗の僧侶達にも漸く妻帶問題が八釜敷なつて來たのに比して如何の感じがあります

親鸞は凡ての信者を御同朋御同行と云つた、凡ての人を眞實の親子たらしめて居る、私の親鸞は念佛を稱へて極樂詣りを念ずる問違つた親鸞ではありません

私は親鸞の如く赤裸々に活き、自由に活き、眞實に活き、兄の作つた甘蔗をかぢりながら大に働きたいと思ります。

●戸惑ひ手紙

◆鹿兒島縣人　村山矢八　松永牢藏
肱岡國利　宮原早右衛門　引地良作　片野盛藏　大迫宗太　山口東吉
◆山口縣人　米本五郎　山田繁一
上田寅吉　松本芳男
◆沖縄縣人　金城治良　親川仁吉
銘刺武太　玉城治郎　與那城蒲
中須根　與那城　大城蒲
◆福岡縣人　光安芳松　西友太　西田幸一　渡邊濱記　中島伊之吉　白石光雄
笹本通勇　岩下龜彦
島田勝藏　藤本勝熊
桑田米吉　奥田重喜
三次市中　島田權六
新潟縣人　澁谷常次郎
宮武勘六
◆香川縣人　南澤利治
◆長野縣人　高尾忠右衛門
◆富山縣人　片岡喜市
◆岡山縣人　東島文隆
◆佐賀縣人　升岡兩市
◆廣島縣人　K. Nakajima　廣田千
◆高知縣人　遠藤與作　鴨原喜市
代太　K. Ikeda
◆福島縣人
◆縣名不詳
以上の手紙は左の處に保留せらる
古庄了
Sr. Furusho
Faz. São Martinho
Est. Martinho Prado
L. Paulista
◆滋賀縣人　西川正郎　梅村喜助
Kawamura Miyozo
◆長野縣人　義家友之助　百瀨松千
代　宮下壽三郎　篠原與三郎
◆沖縄縣人　神谷元二　宮下龜千代
眞喜屋實成　新垣多良　金城珍松
◆福岡縣人　稻益十藏
◆廣島縣人　小林滿雄
◆鹿兒島縣人　吉滿盛
以上の手紙は左の處に保留せらる
Sr. N. Haguiwara
Faz. Chamaan
Est. Jataby
L. Mogyana
◆香川縣人　宮武柳三
◆廣島縣人　福田主人
◆熊本縣人　山口三男
◆縣名不詳　高見爽敬　宮原仁衛門
以上の手紙は左の處に保留せらる
Sr. Watanabe Hisagazu
Caixa Postal, 84
Est. Rio Preto
L. Araraquarense

米國新式の
矢部ボノミ
合同洋服部
ルア、キンチーノ、ボカユーヴァ四八番二階一號及六號室
電話セントラール三八三五

中山旅館
ルア、コンデ、サルセーダス六九番
電話セントラール四五五九番
中山忠太郎
Rua Conde de Sarzedas, 69
Tel, Central, 4559 S. Paulo

御禮廣告
拜啓貴地在住中は不一方御厚情に預り難有奉深謝候今回當地へ轉耕致す餞別までに賜り誠に難有御禮申上候去月八日着耕直ちに授業開始仕候間御安心被成下度候
先は延引ながら紙上にて御禮申上候
大正九年十月七日
メランシヤ耕地
野見山秀雄

イグアペ植民地
辱知諸賢
謹啓從來小林弘一郎事務所として在留諸君の御便利を圖り居候處當地方在留者の增加と共に業務繁忙到底一人にては諸君の御滿足を得る能はざるに付き今般北聖事務所と改稱の上下名四人にて業務分擔誠實を以て左記の事項御依賴に應ずべく此段廣告仕候
營業項目
一、インブレテーロ及コロノ周旋
二、土地及耕地の賣買仲介並測量
三、諸契約及交渉事項
四、諸手續及裁判事項
五、マンチメント賣買取次及マンチメント抵當金融
辯護士　ミゲル・テシエイラ・ピント
Dr. Miguel T. Pinto advogado
辯護士　ジュオン・ドリヤ
Dr. Joao Doria advogado
秋永忠治
小林弘一郎
Caixa Postal, K. Kobayashi
Est. Catanduva
L. Araraquarense

北聖事務所
アラ、クワラ線
カタンヂーバ驛
寺院上通り
一、コロノ及インブレテイロ紹介
二、マンチメント賣買取次
三、土地賣買紹介及土地測量
四、諸願屆書類取扱
五、旅館業
大城德助
山本安之助
Caixa Postal, K. Kobayashi
Catanduva, L. Araraquarense
尙小林弘一郎氏事務所も當館内に有之ブラジル時報購讀及廣告取扱申候

旅館
和洋御料理一切
ボニータ街一一番
上地彌藏
郵函一二二五
電話セントラール五七〇一
神田醬油取次販賣所

年期契約募集
一、年齢十八歲以上三十歲迄
一、募集人員八名
一、位置平野殖民地第十番地區
一、衣食付年給七百鈆より八百鈆迄
西北線ブレジデンテ、ペンナ驛
平野殖民地
山本佐太郎
Faz. Tres Barras
Est. Pres. Penna, L. Noroeste

北聖館
一、コロノ及インブレテイロ紹介
二、マンチメント賣買取次
三、土地賣買紹介及土地測量
四、諸願屆書類取扱
五、旅館業
大城德助
山本安之助
Caixa Postal, K. Kobayashi
Catanduva, L. Araraquarense
尙小林弘一郎氏事務所も當館内に有之ブラジル時報購讀及廣告取扱申候

Garage Normal
Tel. Cidade, 56
Praça da Republica No. 43
業務懇切丁寧
同胞諸君の御愛顧を乞ふ
貸自動車業
電話シダーデ五六
プラサ、ダ、レプブリカ四三
中村末熊
林岩松

尋人
熊本縣人
麻生敬明
同人兄麻生清氏死去に付跡始末相談したし現住所御存知の方は左御手數下名へ御一報願上候
酒井一男
Villa Cotia, Est. Cotia
L. Sorocabana

◇文藝◇

世界を尋ねて

西ノ村生

木枯し吹く或夕暮リベイラ河邊の丘の上で四方の景色を眺めて居た、日は彼方の山の端に隱れて遠くに見ゆる海岸山脈は薄紫を呈して永く永く連つて居る、私は思つた、若し彼の山に小徑があつて、自分一人とぼとぼと歩んで居たらどうだらう、日は既に沈んで夜は刻々と迫つて來る四邊は蒼茫として聞ゆるものは梢を吹き渡る風の音のみ、頼るに家なく道は極りなし、私はそう思うと何だか淋しい感じがした。

其時私の心は叫んだ、お前は親がある、友も知人もある、そうして一所に募して居ると思つて居る、然し驕がへつて考へて見よ、抑もお前が生れ出た時、唯一人でなかつたか、そして又此世を去る時やはりお前は一人である。永遠の旅から旅へと嶮しき道を歩む人間それはお前自身である、私は淋しく下を見た河は悠々逼らず何物をも流して行く、お前は比すべくあまりに小さい。

お前の目に映るものは或者の形骸である、耳に聞ゆる者は或者の聲である、そして或者がどんな者かお前は知らない。

お前は愚である弱小である哀れな者である。

然しながらお前あるが爲めに世界ある事を忘れてはならぬ、假に眼を閉いで見よ、お前の前には何もない、お前あるが爲めにすべてのものがあるのである。

けれ共今のお前の眼には何が映る、金滿家である貧乏人である、華族である平民である、勞働者である非勞働者である、男である女である。

お前は云ふ事と爲る事と反比例するそれが愚な時程甚しい樣に、今見つゝあるお前の世界ももつとよく見直さなければならぬ、お前が眞實に自己の世界を見出し得たならば其所には限りなき喜がある、世の中の謎を解くべき、鍵もある不老不死の藥もある、神も佛も居る、最少の數は此所から初まつて最大の數も又此所で終つて居る、そしてそこに生きた時心からの滿足がある。

お前は常々他を侮り又は踏みつけるそうした時に於てのみ自分は豪いと思つて居る、けれ共若し此國で少し斗りの土地を買ひ、私は此土地の國王なりと公言する者あらばお前は此狂人を何と見る必ずや哀れまむ。

お前はお前自身の世界を見出して永遠に其所に生きねばならん。

自己の世界を見出すべくお前は唯一思つて居る、けれ共若し此國で少し斗りの土地を買ひ、私は此土地の國王なりと公言する者あらばお前は此狂人を何と見る必ずや哀れまむ。

お前はお前自身の世界を見出して永遠に其所に生きねばならん。

自己の世界を見出すべくお前は唯一思つて居る、けれ共若し此國で少しを妬んでゐるので、これは屹度翠珠が盗つたに違ひないといふ噂を立てました、翠珠は自分の濡衣を乾すに由なく其の日から自分の部屋に垂れ籠めて泣いてばかりをりました、弦に王樣の近侍の武士に蘇勇といふ青年がありました、あの美しい翠珠はお姫樣の指環などを盗へ紅葉狩の時、お姫樣が何處かへ落したものに違ひないと思つたので一人で勞山へ行き、酒宴のあつた邊を隈なく搜してをりました、偶紅楓の林の奥の方で大勢の猿の鳴き聲がしますので、近寄つて幹の蔭から覗いて見ますと、其處に一匹の大猿がお姫樣の失した指環を指で摘まんで眷族の猿達に誇り顔に見せてゐるのでした、そこで蘇勇は携へてゐた弓に矢を番い狙ひを定めて射て放すと矢は大猿の心を射貫き小猿などは仰天して逃げ去りました、蘇勇は大猿を肩にかけ指環を持つて歸城して、事の次第を王樣に申上げて指環は愛たくお姫樣の手に還り、翠珠の無實の罪は忽ち晴れて了ひました、蘇氏は宅へ歸つて大猿を料理し、友達を呼んで酒宴を催してゐるとこへ王樣から直ちに登城せよといふ御諚が下りました

御前へ出ると、王樣御夫婦は侍婢の翠球を其方の妻に下さると仰しやいました蘇氏は夢ではないかと喜んで即座にお受をいたしました。

王樣御夫婦はお姫樣をつれて勞山といふ景色の好い山で紅葉狩を催されました。そして秋の錦を織なした山や溪の景色を賞でながら酒宴が始まりました酒宴の暇にお姫樣の瑚璉は侍婢の珠翠やその他の女中などと四邊の景色を眺めながら漫ろ歩きをしてゐましたがやがて、還御といふことで急いで故の御帳の莚に還り、御機嫌麗しく王樣御夫婦と再び馬車を連ねて御歸城になりました。翌る朝になつてふと、氣がつくと大きな寶石が入つてゐる指環が何時の間にかお姫樣の指から脱けて、失なつてゐるのでした、大勢の侍婢たちは日頃縹緻好の翠珠が

▼俺は豪　いものであると云ふ自惚れは其の人に職業を與へない。土から生へ拔いた赤裸々の人間に歸り得れば所在に職業が轉がつて居る。職業難とは結局自惚れ者の贅澤である

▼貯財に　對してばかり異常な若々しさと情熱との所有者ではあるが、

●●●ミチダサ●●●

道義觀念に對しては盲目で老いて居ることが在留同胞の誇りだらうか？

▼眞實なる人（善に徹すると同程度に惡にも徹したる人）でなければ罪惡に對する正しき良心の反抗、虛僞に對する高尚な感情の憤怒はあり得ない概念と抽象との上に築かれた罪惡嫌惡の倫理生活程價なきはない

▼敎育と　云ふものが人間の陶冶完成と云ふ事を主眼とするものであるならば人間の不完成即ち動物性を否認しては存在の意義を失はねばならぬ、動物性を認める以上之れを如何にして醇化するか一問題である、

▼單に之れに冠するに範疇的な概念的な因襲的な惡乃至罪の一字を以てして之れを排斥し去るが如きは單に敎育そのものゝ否定であり又敎育者自身の自己錯誤であらねばならぬ

▼吾輩は　與へられた天分に從つて假令小さい乍らも自己を浸入した仕事をなし得た處に奪ふ事の出來ない愉快さを感知する事が出來る、之れ即ち個性の表現に伴ふ愉快さである

▼之れに　反して所謂使はれる者の悲哀さは他の個性の陰に隱れて働いて行く事である即ち自己を全然現はす事なしにそして其努力と心勞が他の努力となり心勞となつて現はれる處に生れて來る一種の悲哀さである

日本人諸君に對しては特に懇切に一切の法律事務の御相談に應じます

辯護士　ジョアキン、デルフイノ、リベーロ、ダ、ルース

事務所　總領事館同建物四階十四號室
Dr. J. Delfino Ribeiro da Luz
Largo da Sé No. 3, 3º andar
Sala 14　S. Paulo

御旅館

ジュキヤー線

唯一の旅館

北西屋

ジュキヤー線コンセッソン驛

金城太次

開業廣告

今回上塚殖民地内にブリキ屋を開業致し專ら堅牢にして使用便利の噴霧器を製造し且つ左の廉價を以つて御求めに應ず可く候間何卒御用命被仰下度願上候

噴霧器

15リットル入
—並製　五十二針レイス
—特製　五十五針レイス

林田伊十

Est. Heitor Legrú, L. Noroeste.

▲日本品は何品にても御注文に應ず

聖市コンデ　サルゼーダス街五一番

木藤商會

大澤醬油取次所　KIDO SHOKAI
Caixa Postal 1466
R. C. Sarzedas 51
S. Paulo

干魚、鹽魚、鹽鰯

おろしうり

Camara Torção, 26
Mercado SANTOS
サントス干魚製造所

清岡愛次郎

開業廣告

指物師　野島兵太郎

私儀今般左記の人と共同にて指物幷に建築請負業開始致候間各位諸君益々御引立の程奉希候

聖州ノルテ、サンパウロ線
カタンヂューバ市

三谷岩馬

郵函三番

CASA BARATEIRA

行敏戸安

Est. Heitor Legrú　*　Est. Biriguy
Linha NOROESTE

▼營業品　雜貨、金物類、食料品、其他、噴霧器、種子蒔機、ベルデバリース

▼日本品　大工道具、化粧品、小間物、賣藥、食料品、種子物、玩具、雜誌類、正宗、醬油、生乾魚

兼業　旅館

パン製造販賣

煉瓦及屋根瓦

農產物一切買入

開店以來多大の御引立を蒙り難有奉謝候就ては此の度ビリグイ町に支店を設け本店同樣品物も取揃へ大勉强にて御用命に應ず可く候間一層の御引立の程祈上候

本店ノロエステ線エクトルレグル驛前

支店ビリグイ町活動寫眞館前

御菓子

まんぢう、やうかん、せんべい、その他

相變らず御引立を願ひます

村上銀市

Rua C. Sarzedas, 71

御姫樣の指輪

昔支那の齊の國の王樣に、一人の美しい御姫樣がありました、名を瑚璉といつて、花に喩へれば牡丹のやうな豐な麗しい姿のお姫樣で兩親は一方ならず寵愛されました、其のうちお姫樣が年頃になつたので、國中に布令を廻して、妙齡の娘のうちから一人の娘を撰り出してお姫樣附きの侍婢とされました、撰り出ふれた娘の名は翠珠といつて、その名のやうにこれもお姫樣にも遜らない美しい人でありました、或る年の秋の丁度紅葉の色づくころ

伯國情話

濁れる血（四）

…クラビニユス事件譚…

芳郎

▼珈琲園の怪、血塗れの死體▲

日ごと夜ごとに惡魔のやうなシルバの詭計がドナ、イリアに向つて囁かれた、是にはまだ他に一の事情が伏在して居つたのであつた。

初老の女であるとは云ふものゝドナ、イリアの胸の中には、未だ若い女のやうな血が燃えて居た、寧ろ病的な彼女の濁つた男戀しさの血は彼女を驅つて不義の重ね穴に陷らしめた、そうして年若い吾が子のやうなる男を又どなく可愛がつた、丁度娘が三吉人形を抱くやうに……

支配人のシルバは斯うしたドナ、イリアの態度を感知した時少からぬ嫉妬に慄えたと共に今日の自身の地位が尠からず侵害かされて居る事を恐れずには居られなかつた。遂に『可愛そうだが彼男の……血で……』

戀の復讐と愛の悲曲……ドナ、イリアが若い人形の死の前に演ずる……を嫉妬に燃ゆる胸に秘して、ドナイリアに說くのであつた。

ドナ、イリアも可愛い人形を手から奪はれる事は泣きたい程であつた然も泣くに泣かれず

『彼男は妾の三吉人形だから……』

とも言ひ兼ねて、戀の深傷と不義の鍵を握られて居る弱々しい女心の爲す詮もなくシルバの詭計へと墮ちて往くのであつた。

それから後の日の午後であつた、ドナ、イリアの人形の男はリベロンから來耕た、そうして車寄から應接室に入つて直ぐ右手に扉のある二室つゞいた客室へと導かれた、前庭に面した室からは食器室に通ずる扉があつた、ドナ、イリアの居室は應接室から食堂を通りぬけた奥の階子段の所にあつた、すぐ其の隣室は下女室になつて居た。

その晩遲くドナ、イリアはコンニヤツキや珈琲に牛乳などを日本人の給仕男に命じて居室に運ばせた、はだ薄寒き夜は兩人の影を深く包んで寂々と更けて行く……

＊　＊　＊

其れから二三日の後珈琲園の中に血に塗みれた無慘な死屍が雨に曝されて居た、乞食のやうな姿の——

その傍に麻布の衣服袋と樹の枝に垂れさげた破れた古い洋傘が一本謎の樣に死屍を護つて居た。

東京市下谷區入谷町三一一（大正八年十二月渡來組合十三回移民）
外妻子二名　松永藤吉

東京市四谷區傳馬町新一の二四（右同）
外妻子二名　山田長

沖縄縣中頭郡越來村大字上地一二五四（大正七年七月渡來組合四回移民）
外妻子二名　比嘉牛

石川縣石川郡美川町九四（大正八年三月渡來組合九回移民）
外妻子兄弟四名　宮川敏三

石川縣石川郡美川町八四四、（右同）
外妻及弟二名　二木與三吉

右者耕地勞働契約を履行せざりしのみならず耕地退去に際して不都合の行爲あり目下行衛不明の者なるに付各本人の現住所を承知せらるゝ向は至急通告ありたし

通告は匿名にても苦しからず

大正九年十月十日

在『サンパウロ』帝國總領事館

『リベイロンプレト』同分館

日本近信

●秋風落莫の實業界

大會社がドシ〳〵社員を減らす

無產有識のサラリーメンが遊民に

◆貧乏神のやうに嫌れる原さん◆

財界不況の颱風に遭つて先づ吹き飛ばされたのは大戰中からの好況につけ上つて盲滅法に簇出した會社工場であつたが夫等の屍息丈では世界的の大旋風は尙止まない諸々の會社工場に恐ろしい痛手を負はせ今や名だゝる

▼大會社の礎　まで搖がさうとするイヤ既にやられたものも彼方此方にあつて火の手はもう隣まで來たと云つてもいゝ爰に於てかどの會社でも事業縮小人員淘汰を極度に膨脹せしめた大手をすぼめて積極から消極へと一轉しなければならなくなつた殊に鐵工業は眞先に面喰つてゐたが淺野製鋼の如き遂々此間總一郎サンが

▼聲涙共に下　らしての告別辭に解雇された七百餘人も貰ひ泣きして出て行つた悲劇があつたが東京大阪の鐵成金がバタ〳〵と倒れた例は世間でよく知つてゐる銅の方はどうかといふに久原鑛業の如きも職員雇員を合せて二千名が五人減り十人去つて其の後を補充せぬ爲積極的にこそやらぬが

▼人員は日に　月に減つて行き採掘從事の工夫達も罷めるに任せて補助はしない一方生產高を減退せしめる爲に製煉場に遠かつたり質のよくない山は自然打棄る事になり事實上の人員淘汰事業縮小を行て居るのは獨り久原のみではなく三井や古河其他の鑛業部も未だ世間に著しく噂される程に激しくはやらないが可なり遣て居り且つ

▼消極主義を　嚴守して居る又鑛業計りではない牽先して人員淘汰にかゝつたと噂さるゝ三井物產の如きも各方面に受ける打擊は少からず社員三千に對して實際は未だ何等手は出さないが社員と同數約三千の傭員と支店々々で所謂消極主義を採つて居り一時世のサラリーメンをして羨しがらせた連中も此後は左樣も行くまい狀態にあり

▼日本郵船等　も大淘汰を始めた屈指の大會社既に然り筋肉勞働者の失業に次で滿天下の所謂無產有識のサラリーメンの群が遊民にされるのは之からであらう一方物價は聲許りで更に下らず世は物騷となり行く外あるまい不景氣になつてからといふものは

▼總理大臣原　さんはツイ先頃まで打つて變り花柳界で貧乏神のやうに嫌はれ出したといふが花柳界からなら未だ可い……

▼三萬に上る

大阪の失業者

……俸給生活者の失業

と老朽吏員淘汰……

大阪に於ける財界の不況は依然として沈衰狀態を繼續し七月下旬に於て工場の閉鎖休業縮小は百九十一に達し之に伴ふて解雇された職工八千四百二名で全然

▼失業狀態　に在る者が一千八百二十八名である而して三月以降よりの閉鎖休業を合すれば實に八百九十八工場では二萬九千二百二十七人の職工が解雇された而うして路頭に迷つてゐる者が五千六百七名である此外二千名の就業不詳者がある失業者の人員淘汰事業縮小を行て居るのは獨り久原のみではなく三井や古河其他の鑛業部も未だ世間に著しく噂される程に激しくはやらないが可なり遣て居り且つ

▼消極主義を　嚴守して居る又鑛業計りではない牽先して人員淘汰にかゝつたと噂さるゝ三井物產の如きも各方面に受ける打擊は少からず社員三千に對して實際は未だ何等手は出さないが社員と同數約三千の傭員と支店々々で所謂消極主義を採つて居り一時世のサラリーメンをして羨ま

▼不良及老朽　吏員の淘汰をも此際行ひ以て優秀の俊才を求むべく目下計畫中である

●南米三國と

近く通商開始

▽天產山の如し

我國では人口問題を解決し一面南亞等職業紹介所を設置して救濟に努むると共に人材拂底の當時採用した

東京電報、桑港近信（九月七日）

●論功行賞公表

歐洲大戰講和論功行賞左の如く發表せらる

但し西園寺公望、內田康哉、珍田捨巳、高橋是清、牧野伸顯、松井慶四郎、幣原喜重郎諸氏の昇爵又は授爵は既に本紙前々號に發表せるを以て重復を避くる爲め茲に之を省く

海軍大臣　加藤友三郎
陸軍大臣　田中義一
農商務大臣　山本／達雄
（前在伊國特命全權大使）情報局總裁　伊集院彥吉
依勳功授男爵（各通）
內閣總理大臣　原敬
臨時外交調査會委員　伊東巳代治
同　子爵　後藤新平
男爵
賜勳一等旭日桐花大綬章（各通）
內務大臣　床次竹二郎
文部大臣　中橋德五郎
遞信大臣　野田卯太郎
臨時外交調査會委員　犬養毅
在和蘭特命全權公使　落合謙太郎
陸軍中將　奈良武治
海軍中將　竹下勇
賜勳一等旭日大綬章（各通）
鐵道大臣　元田肇
賜勳一等瑞寶章
臨時外交調査會委員　平田東助
子爵
賜金五千圓
內田康哉、珍田捨己、牧野伸顯、田中義一加藤友三郎の諸氏は右の如く昇爵又は授爵の恩命に接したる外各金五千圓を賜りたり原敬氏は既報の如く伯爵を授けらるべき恩命に接したれ共拜辭せり

の松田條約局長は語る『それは歐洲戰爭前から交涉があつたが色んな事情で延々になつてゐたのである各歐米諸國では

◇南米　には注意を怠らず既に條約も締結してゐるので本省では目下智利、亞爾然丁、伯剌西爾の各公使をして各本國に交涉してゐるから近く條約も締結の運びに至るだらうと思ふ尙之れ等の國々では移民を希望し土地を與へて呉れるさうだから愈々實施の曉は此方面の

◇富源　も開發されて移住する者に福音を齎らすであらう』又通商局の赤松第三課長は曰く『ウルグワイ國は南アメリカ中の最小の共和國であつて面積は凡そ七萬二千方哩人口十一萬程あるが、過半は移住民である氣候は夏季の炎熱であつても太西洋より來る

◇海風　の影響を受け頗る温和で南歐に似た處がある產物は主に農產物で玉蜀黍、麥類、煙草等があり牧畜が盛んなので羊毛の產出が多い又パラグワイ國はウルグワイ國よりか少し大きな國で共和國であつて、

◇熱帶　で大陸性の氣候を帶びてゐるが南風がよく之を緩和してゐる產物は頗る豐富であつて巨大な森林が到る處に繁茂し纖維用染料用の樹木又は護謨を產出し特產物のパラガイ茶は主に亞爾然丁に輸出されてゐるヴエチスエラは面積凡そ三十九萬四千方哩人口は二百七十萬ある

◇氣候　は概して熱帶的で首都のカラカスは高地にあつて氣候は頗る温暖であつて一般に農產物多く沿岸地方には眞珠が多い

●川崎商船學校が

神戸高等商船校

直轄學校として來十一月開校……校長は永田中將

政府は曩に故川崎芳太郎男の遺志に基く舊川崎商船學校の寄附を受けたが今回之を昇格して文部省直轄とし東京の

◆商船學校　と東西相對立せしめて神戸高等商船學校と命名する事となり十三日附を以て豫備海軍中將永田泰次郎氏（去十一日中將に進級する

と共に豫備役編入）を校長に任命した、右に就て山崎實業學務局長は曰く『本校に關する件に就ては去年末に於て故川崎男から從來の川崎商船學校の敷地建物一切と資金二百四十萬圓との寄附方を申出でられたので政府は

◆之を受けて　普通なら今年の春から開校する豫定であつたのであるが議會解散の爲に豫算が不成立となつた關係から今日まで延び〳〵になつてゐたのである然し今回の臨時議會で豫算も出來たから今日愈々其制度が公布された次第である、學校の組織は專門學校で學科は航海科と機關科の二科を設け年限は四ヶ年と六ヶ月

◆其內二年　は敎室で修學し次の二年は海上實習及び工場實習、殘りの六月は軍事實習である、敎官は今年度は敎授十七名助敎授十七名であるが漸次增加して來年度以後完成期迄には敎授卅三名助敎授十八名とする豫定である、生徒の募集は春秋二期としてあるが今年は十一月下旬の一回だけ入學せしめる、試驗は多分

◆十月上旬　行ふ事になろう、入學資格は專門學校令の規定に依つて中學校、商船學校、工業學校、商業學校等の卒業生と云ふ事勿論である猶從來の川崎商船學校は甲種程度の組織であつたが官立となつてからは本校の附屬として現在の儘當分存置する方針である』云々

●二外國人に恩給

元海軍省傭ひ英國人ウ井リアム、ウードワード氏は明治六年七月日來軍兵學寮軍艦筑波、富士横須賀水兵本營及び浦賀屯營及び軍艦比叡に勤任し同二十一年八月解傭に至る迄十四箇年間運用術敎師として練習生に對して懇切誘導の功顯著なるものあり本年四月より終身每年度四百圓の恩給を給することゝなれり又本年七月末日滿期解傭となれる元東京帝國大學傭敎師英國人フランク、ブライオル、バルビス氏に對しても本年八月以降終身每年度二千圓を支給することゝなれり

米利加の富源を開發せんと未だ通商を開始されてゐないウルグワイ、パラグワイ、ヴエチスエラ三箇國と近く通商開始すべく

◇條約　を締結すること、ゝなりヴエチスエラ國よりは既に臨時特命全權公使デュプレー氏の來朝を見着々そ運びに進んでゐる之に就き外務省

廣告

弊社賃付移民中來年一月末日は第二回返濟期に相當致候にも不拘未だ第一回の返濟を爲さゞる者も有之賃金整理上尠からず支障を來し候に付ては來る拾一月末日迄に無相違御拂込相成度万一期日迄に御拂込無之候節は不得止本國保證人に辨濟方請求可致候間左樣御了承相成度此段廣告仕候也

大正九年十月

宛名　MORIOKA IMIN KAISHA
a/c Brazil Imin Kumiai
Caixa Postal, 1082
S. PAULO

森岡移民株式合資會社

日本雜貨卸商

日本貿易株式會社

聖市出張所
Rua Quintino Bocayuva, 80
Caixa, 1714 Tel. Cent. 3449
São Paulo

リオ支店
Rua Candelaria, 90
Caixa Postal, 1246
Rio de Janeiro

新荷着到

直輸入商　瀨木商店

聖市郵函一七七一番
電話（セントラル）三八三六番

◇金物類◇種子物◇賣藥
◇昆布類◇鑵詰類◇寒天

◇神田醬油取次販賣所

農產物委托販賣

賣るならば『サンパウロ』買ふならば『サンパウロ』

噴霧器
英國製　百十ミル
內地製　甲七十五ミル　乙四十五ミル
同　甲一基七ミル　乙一基四ミル五百
北米製　一台　二十ミル
一キロ　三ミル三百レース（鑛入五キロ）
種子蒔機
骨無鹽鶴

謹告

上地旅館に移轉す
Rua Bonita, 11, Caixa Postal, 1850

聖市　東京物產商會

◎各國電報

●桑港商業會議所と排日案

（十七日桑港發電）

當地商業會議所は一般投票に依つて決定せられむとする排日法案には斷然反對なる旨を公表し且つ該法案を以て日本移民に對して苛酷に過ぐるものなりとし、移民問題は中央政府を通して日米間の新條約に依つて解決せむ事を提議せり

●日本に於ける排米運動

（十七日東京發電）

政界知名の士の中には來る十一月に行はるゝ加州の一般投票にして州議會の協賛を經たる日本人土地所有權禁止法案を承認する場合に、日本にも排米運動を起さんと專心準備中のものあり、國内に憤懣の氣漲れるは蔽ふ可らざる事實にして、一方新聞紙は著名の論客の說を掲げて大に北米人に對する憎惡心の鼓吹に努めつゝあり

●日米商議中止と國務省

（十九日華盛頓發電）

日本移民に關する日米兩政府間の商議が、排日法案加州議會通過のため一時中止せられたる樣二三の新聞紙は報道せるも、該商議は極めて順調に進行しつゝあと旨本日國務省より發表せられたり

●滿鮮國境の暴徒討伐

（十九日東京發電）

滿鮮國境に占據せる暴徒討伐に關する日支共同の提議は、支那政府の拒絕する處となりたるも、日本政府は現に暴徒の跳梁せる地方には之を鎭壓するに足る軍隊を派遣する事を宣言せり、此軍隊は其地の秩序恢復と同時に撤退せしむるは勿論なり

●總領事館に於ける天長節拜賀式及びレセプソン

來る十月卅一日天長節祝日に際し帝國總領事館にては別項公告の通り當日午前九時より同十一時までアベニーダ、パウリスタ街總領事官邸に於て拜賀式を擧行せらるべく尙ほ同日午後四時より同七時まで同官邸に於てレセプソンを催ふし伯國官憲、在野の紳士淑女及び在留邦人諸君の祝賀を受けらるゝ趣きにて服裝には別段制限なきも外國人間に伍して恥かしからざる程度のものを望むとのこと

●伊國特派大使オルランド氏

伊國特派大使ヴイトル、マヌエル、オルランド氏、同夫人、令孃及び隨員を乘せたるラテチャ號は二十日未明無事リオ港に投錨した

午後四時より同七時まで同官邸に於て待ち構へた新聞記者に快活に簡單にてレセプソンを催ふし伯國官憲、在野の紳士淑女及び在留邦人諸君の祝賀を受けらるゝ趣きにて服裝には別段制限なきも外國人間に伍して恥かしからざる程度のものを望むとのこと

●曰國兩陛下の御歸國

約一ケ月に亘りてリオ、ミナス、サンパウロを遍く御視察、至る處伯國官民の眞心をこめたる御歡待をいたく御滿足に思召されたる白耳義國皇帝皇后兩陛下並皇太子殿下には盡きせぬ名殘を惜まれつゝ御來伯の際の御乘艦たる伯國戰艦サンパウロにて去る十六日午後二時リオ港御出發御歸國の途に就かせられたり

●伊國特派大使オルランド氏

本年十月卅一日リオ港に入り茲で大統領代理伊國特派大使ヴイトル、マヌエル、オルランド氏、同夫人、令孃及び隨員を乘せたるラテチャ號は二十日未明無事リオ港に投錨した

午後四時より同七時まで同官邸に於て待ち構へた新聞記者に快活に簡單にてレセプソンを催ふし伯國官憲、在野の紳士淑女及び在留邦人諸君の祝賀を受けらるゝ趣きにて服裝には別段制限なきも外國人間に伍して恥かしからざる程度のものを望むとのこと

オルランド大使は其伯國訪問の目的を記者團に告げて曰く

『伯國が國際的に重要な位置にある事及び數百萬の伊國人が在留して居ると云ふ事は私に公人として之を視りと、尙ほ艦隊乘組員數及び大尉以上の姓名を擧ぐれば左の如し

ヌエル三世陛下は一昨年のエピタシオ大統領閣下の伊國訪問に對する答禮旁々此國情研究のため渡伯せられたき御希望を有せらるゝも今直ちに外遊せられる事は國情が許さないので私が特派大使となつて宸翰を捧持して來た次第である、此使命を終へた後は私は一個の伊國政治家として自由に伯國内を巡廻視察したい希望である』

●農商務省令第廿二號廢止

本月十八日總領事館着外務大臣發電報に依れば大正三年九月農商務省令第廿二號（戰時中工業原料輸出制限に關する件）は本年十月卅一日限り廢止せらるべき旨十月十四日官報を以て公布せられたる趣きなり

尙ほ右制限中の重要なるものを掲ぐれば左の如し

米、麥、黃燐、苛性曹達、硼酸曹達、製紙用パルプ、鹽酸加里、アニリン及アリサリン染料、生護謨及同製品、羊毛及同製品、或種の礦石其他の原料品

●一日繰上げ擧行の在留民天長節祝賀會

本年の天長節祝日は日曜に當り會場の都合上聖市在留民の天長節祝賀會は一日繰上げ來る三十日に擧行することは前號所報の如くなるが尙ほ其のプログラムに關し確定せるものを報道すれば左の如し

天長節祝賀會順序

▲會場　▼アツクリマソン公園（入場隨意）

▲會時　▼十月卅日（土）正午より

◆第一式

一、祝賀式　午後正一時
一、開會の辭　氏名未定
一、國歌　君が代二回合唱
一、祝辭　氏名未定
一、万歲三回合唱
一、樂奏　伯國歌一回

◆第二式

一、餘興　午後二時より

大正小學校男生徒（小）徒步競走
同　同　女生徒（小）同
同　同　女生徒（大）同
五基米突長距離競走
（アクリマソン湖邊五週）
女子豆拾ひ競走
提打競走
大正小學校男生徒旗取競走
一人一脚競走
女子針通し競走
二人一組
小供育負競走
百メートル競走
二人三脚競走
旗取競走
ボート競走
野球試合
（但し卅一日午後二時コンデ坂下にて）
（二回）

閉會午後六時

●練習艦隊サントス寄航は十一月廿七日に變更した

最近更めて帝國總領事館へ達したる通知に依れば我々の御首待つゝある練習艦隊伯國寄航は響きの報道期日より十日間繰上り十一月廿日にリオデ、ジャネイロに寄港一週間碇泊廿六日同港拔錨廿七日サントス港着四日間碇泊の上十二月一日同港拔錨モンテビデオに向ふ由なれば淺間、磐手兩軍艦の雄姿を伯國港灣に觀ることは此處僅か一ケ月足らずとなり當地歡迎團の委員連は寄附金の取扱ひや歡迎案實行の準備やらにて一同大車輪の努力なるが寄附金の集まり方意外に好況なるを以て初めの豫算以上に盛大なる歡迎を爲し得る見込なると云ふ事は私に公人として之を視察研究せんとする動機を與へた、マ

▲練習艦隊司令部

司令官　海中將　船越楫四郎
機關長　海中佐　山下巍八郎
參謀　吉田善吾
副官　少佐　江頭貞三
參謀　機少佐　片山清次
司令部附　大尉　中村珍次
副官　參謀　同　大尉　阿部嘉輔
樂曹長　石井春省
司令部附　海教授　宮澤虎雄
（以上九名）

▲軍艦淺間

艦長　大佐　小山田繁藏
副長　中佐　成富保治
機關長　機中佐　小西省三
軍醫長兼分隊長　醫少佐　坪内順良
主計長兼分隊長　計少佐　鈴木博
乘組　少佐　奥名清信
水雷長兼分隊長　同　日高劍

砲術長　同　安藤隆
運用長兼分際長　同　香椎哲二郎
航海長兼分隊長　同　曾我清市郎
分隊長機　少佐　小山孝路
副砲長兼分隊長　大尉　武田盛治
同　高木武雄
同　森田一男
同　小島正
同　機大尉　細太信三郎
同　同　野宮三郎
乘組　同　都築正男
（以下次號）

●齋藤氏出聖

サンタエウドシヤ耕地支配人として令名ありし齋藤武雄氏は通譯生に任命せられ今回當市總領事館に入る事となり去る十八日新夫人同伴出聖十九日より出勤

公告

來ル十月卅一日天長節祝日拜賀式ノ次第左ノ通リ相定ム

大正九年十月廿一日

在サンパウロ

帝國總領事館

一、場所　アベニーダパウリスタ街百四十三番總領事官邸
一、時間　午前九時ヨリ同十一時迄
一、服裝　別段制限ナキモ各自ニ於テ不敬ニ涉ラザル樣注意スベシ
一、名刺　各自名刺ヲ御持參相成度シ

□□人事來往□□

▲粟津金六氏は商用にて十九日朝來聖廿日夜行にて歸店
▲輪湖俊午郎氏は十九日朝歸聖
▲原口七郎氏は夫人同伴十九日歸聖
▲山田揭之助氏は夫人同伴廿日歸聖
先般來三角ミナス及ノロエステ地方視察旅行中の同氏は結婚の爲めリオに赴かれたる同氏は新夫人同伴廿日歸聖
日本貿易リオ支店長

練習艦隊歡迎費寄附者芳名並金額（二回）

（受付順）

●サンパウロ市

金五百圓　藤田敏郎
金百圓　天滿石隆
金百圓　山口喜太郎
金五百圓　アンツーチスド
金四百圓　スサントス會社
金五百圓　愛輪同志會
金八十圓　日本倶樂部
金貳百五十圓　カーザ東京
金五十圓　明穗梅吉
金貳十圓　坂元實靖

金五十圓　原口七郎
金貳十圓　戸塚歸一
金五十圓　玉城高德
金貳十圓　釘尾興八郎
金貳十圓　長濱善成
金五十圓　長濱善成
金貳十圓　釘尾儀太郎
金貳十圓　松尾峰三郎
金參十圓　矢村政市
金參十圓　山部隆次郎
金貳十圓　轟久江
金拾圓　長谷川銀
金貳十圓　S
金五十圓　K
金貳十圓　中尾末一
金貳十圓　白津茂吉
金參十圓　清水爲太郎
金五十圓　醬油釀造業孫吉
金五十圓　木村清市
金十五圓　森地長造
金十五圓　坊迫八郎
金十五圓　藤井鎭男
金五十圓　橋本德四郎
金二十圓　川隈數人
金十五圓　梅田德代
金十圓　松崎久吉
金十圓　稻葉定衛
金十圓　杉本觀美
金十圓　田川豐
金貳十圓　池田豐
金七十圓　渡邊作之
金參十圓　景山熊十
金百五十圓　岡本商店
金貳十圓　石末清太郎
金參十圓　三谷徳之
金五十圓　山田勘正
金十圓　村房吉
金貳十圓　石田龜太郎
金十五圓　米田龜太郎
金十圓　田村吉
金十圓　内畠藤吉
金十五圓　久保田右衛門
金十圓　中野萬吉
金十圓　清水芳
金十圓　我德佐
金十圓　太々記
金十圓　神田芳太郎

●タクアリチンガ
金十圓　ペガードバウロ

●ビリグイ槇氏地
金百圓　小川涉

●マルチーニヨプラード驛サンマルチーニヨ耕地
金十圓　沖田豐吉

●ピラコスチーナ耕地
金八十圓　ピラコスチーナ

●ピラチニンガ驛バラコン耕地
金五圓　矢崎節夫

●セラナ驛セーラグランデ耕地
金參圓　三木原與一
金參圓　日本人會
金參圓　齋藤力
金參圓　梅津彌太郎
金參圓　金城龜二郎
金參圓　阿部吉松

●ジャタイ驛ジャタイ耕地
金貳圓　平良政善

●ブエノポリス驛カンタガーロ耕地
金七圓　二見李治
金參圓　國中村彦市
金參圓　高野次兵衛
金貳圓　上津源藏
金貳圓　髙津元平
金壹圓　國造

●リオプレート驛
金五十圓　福島耕地一同

●カンブイ驛カンブイ耕地
金五圓　石井泰吉

●セルケールセザール驛
金十五圓　岡島次郎

小計四コントス七圓四十七圓レース也

▲累計拾三コントス七圓レース也

練習艦隊歡迎團

▲正誤　前號所載寄附者芳名第一回中石井タマは石井クニの誤りに付正誤す

廣告

來る三十日（土曜）天長節祝賀會當日は例年に倣ひ午後三時（豫定）紀念團體撮影同六時より本會々場に於て茶菓の饗應行はるべく候へば各員擧つて正午の定刻に遲れず在留邦人祝賀會場（アクリマソン公園）に御集會候也

大正九年十月廿二日

金泥街四八番

愛輪同志會

會員諸彥

敎師招聘

今回當殖民地内ゴンザーガ區に於て小學敎師一名招致仕度候に付ては日本内地に於て斯道に經驗ありし人大至急御申込被下度候也

年輩著にして夫婦者

但し斯道なる以て天職と心得犧牲的に盡力せんとする人は若年又は獨身なるも可也

二、常成長年月を要し得る者

三、當伯國語を少心得居る人は一層可也

四、月給現在百參拾ミルレース

但し家族數及生徒數の增加と共に增俸す

五、學校に相當設置して現在男女生三名あり近來家族數及生徒數益々增加の傾向あり

大正九年十月十四日

ノロエステ線

エトルレグル驛

イタコロミー殖民地

事務所

熊本照人廟布涌儀永々痢氣の處養生不相叶十月十四日聖市に於て死去仕り翌十五日アラサ墓地に埋葬致候間此段生前厚知諸君へ謹告仕候

十月廿二日

男　涉
友　酒井德次郎
人　酒井一男

22 de Outubro de 1920 NO. 159

Noticias do Brazil

大正九年十月廿二日　金曜日　第百五十九號

長篇講談

桑平内

第百二席

貴殿の御身分も略承知いたし居りますれば決して惡くは計ひ申さぬ、御免……』と言ひつゝ、鐵扇齋の傍へ進んで來た、禮儀正しく來られたのですから鐵扇齋も亂暴は出來ない

平『イヤ、態々の御出張御苦勞千萬に存ずる御懇なる御挨拶恐れ入ります、某は桑鐵扇齋と申す浪人者此の塲の樣子は云々斯樣、決して故なく狼藉をいたす者ではござらん、篤とお調べ下されたし』と一點の淀みもなく申述べる、權十郎は打點頭き

權『イヤ、其事は訴人の者より豫め承知いたして居ります、何をか包まん、某は貴殿の御引立を蒙る豐前屋の番頭幸吉の妹花を妻といたす花房權十郎でござる』平『ナニ、然らば幸吉の妹聟は御身でござるか、ア、夫りやア好い處で御面會を仕つる』幸吉の妹が御家中へ縁付いて云々といふ話は豫て幸吉より聽いて居りましたが、今此咄嗟の塲合に其人が來やうとは思はなかつた

平『コレは〳〵花房氏で御座つたか、存じながら御無沙汰を致して居つた

權『イエ〳〵某こそ平素妻より貴殿の御噂は聞き及んで居るのみならず江戸表に於て天晴れ武藝の大達人、殊に昨年石州津和野の龜井家と長州家と確執の際は貴殿龜井家の總大將となり、僅の小人數を以て毛利の大軍を駈け惱ましし、見事勝鬨上げられた事は專ら此の土地までも響いて居ります、數ならぬ某も一度拜顏の榮を得度く心得居りました、然るに先刻幸吉我屋敷へ參り、豐前屋の娘光が危難に逢ひし顚末より、貴殿がその恥辱を雪がんため義に依つて此處へ乘込參られし由承はり、斯は容易ならぬ次第若しも町奉行所より召捕に向ひ無禮あつては一大事と心得、急ぎ駈け付り參つた、幸ひに事なきを得て重疊でござる』と一伍一什を物語る、之を聞いた鐵扇齋も權十郎の義心に感じ厚く禮を申し述べる、乃で花房權十郎は兎に角今夜は御心置きなく御引取り下される樣、後の始末は某が宜きに取計らひ申すでござらう、或は明日にも町奉行所へ御足勞を願ふかも知れませぬ、切望夫れ丈けはお含み下し置かれます樣に』平『イヤ夫れしきの事は幾度にても參り申す、然らば御言葉に隨ひ今夜の所は之にて御暇申すでござらう何分共に宜しくお賴み申す』權『委細承知仕ました』互に挨拶を致し鈴木源内を渡し鐵扇齋は悠然として更科屋を立ち出でました、後に權十郎は夫々死人の取片付を命じ下役の者に鈴木源内を引立てさせ、一旦町奉行に申し上げ、町奉行より御目附、御目附より月番御家老に上申を致し、改めて桑鐵扇齋御呼出しの上御取調と言ふ事に相成つた、鐵扇齋は驚く色なく町奉行所に出頭御尋ねに從つて滔々と事の顚末を物語り、幸吉お光も證人と相成り、一方生證據たる鈴木源内を段々取調になると源内も最初は實を吐かなかつたが、種々吟味せられ今は包むに由なく、松本金之助の武士にあるまじき心得違ひなるを考へず、一同彼に籠絡されて遂に加擔したと言ふ事を白狀に及んだ

奉『不屆き千萬の奴である、本來ならば死罪にも行ふべきの處格別の思召を以て追放仰付けられる、又郡奉行松本金太夫は假令知らざる事なりとも我子が言語同斷の振舞を致したるに付食祿御取上げの上永の御暇を下さる』と云ふ嚴命でござります、是れは皆殿樣の思召に由る處で此他鐵扇齋に斬られたる五名の者は家名斷絶、鐵扇齋は義に依つて惡人成敗を致せしは誠に天晴武士たるべき者の本分であると人を殺して却て御賞美の御言葉が下りました、此處で此一件は無事に落着を見たが、さて不憫なのは豐前屋の娘お光、清淨無垢なる身體を惡侍のために汚され、世間に對して面目が無いと言つた、娘心の一筋にいつそ死んで仕舞はうと刄を咽喉に擬したことも度々であつたが、其都度家人のために止められ、尙ほ親の傳兵衛を始め鐵扇齋にも樣々に宥め慰められ、死を思ひ止まつて親の傳兵衛と共に小倉の御城下に隱居する事となり、店の方は傳兵衛の鑑識に依つて幸吉夫婦が入婿入嫁となつて二代目豐前屋傳兵衛、一層手廣く商賣をする事になりました、偖も鐵扇齋の評判は段々と小倉の御領分内にも知れ渡り、武藝に志あるものは我も〳〵と尋ねて參り、鐵扇術の敎を受け又は武術指南を受くる扨門前市をなす光景でございます、何時しか小笠原大膳大夫樣の御耳に入り、御家老秋元刑部に向はせられ

殿『ア、刑部』

刑『ハ、ツ』

殿『聞けば先日金之助を討たる鐵扇齋と申す者が當城下に未だ滯在し居るとのこと、彼れは江戸表に於て高名なるものである、予が目通りを申し付けるに依り其の旨取計らへ、次第に依つては當家へ召抱へてもよからうぞ』

刑『ハ、ツ』

殿『聞けば先日金之助を討たる鐵扇齋と申す者が當城下に未だ滯在し居るとのこと、彼れは江戸表に於て高名なるものである、予が目通りを申し付けるに依り其の旨取計らへ、次第に依つては當家へ召抱へてもよからうぞ』刑『ハ、ツ』

殿『聞けば先日金之助を討たる鐵扇齋と申す者が當城下に未だ滯在し居るとのこと、彼れは江戸表に於て高名なるものである、予が目通りを申し付けるに依り其の旨取計らへ、次第に依つては當家へ召抱へてもよからうぞ』刑『ハ、ツ』

殿『ア、刑部』